

令和 7 年度 宮前区地域デザイン会議

～アートでつながる宮前区～

開催報告

日時：令和 7（2025）年 5 月 26 日（月）13:00～15:00

場所：宮前区役所 4 階 大会議室

プログラム

開会／出席者紹介

- （1） アートでつながる宮前区をテーマとした理由等
- （2） 区民のアートの取組事例について
- （3） 意見交換① アートの魅力・すばらしさ
- （4） 意見交換② アートの可能性
- （5） 意見交換③ アートを展示する場所の可能性
- （6） 今後の予定

挨拶／閉会

出席者一覧

[市民出席者]

川崎市アートコミュニティ形成プロジェクト 「こと!こと?かわさき」第1期ことラー
有江 恭子さん

イラストレーター/グラフィックデザイナー 安藤 尚美さん

「地域活動支援センターアトリエ言の葉」 施設長 大高 玲さん

美術家 京森 康平さん

エリーズカフェ 代表 小林 貴大さん

株式会社スペリアル 場づくり企画部 須田 展正さん

(株)クリップ 代表 テレビ制作 プロデューサー 宮本 哲也さん

絵描き屋（イラスト、壁画、ボディーペイント等） 武藤 慧子 (Keppy)さん

「花ノ停留所」代表/デザイナー 山田 佳一朗さん

ペンギンカフェ 和田 美智子さん

[行政出席者]

宮前区長 齋藤

宮前副区長 小泉

川崎市市民文化局市民文化振興室 担当係長 青木

宮前区役所まちづくり推進部企画課長 玉井

宮前区役所まちづくり推進部企画課 課長補佐 小西

宮前区役所まちづくり推進部企画課 職員 鈴木

[記録作成・進行補補助]

石塚計画デザイン事務所 千葉、吉川、藤木

地域デザイン会議の様子

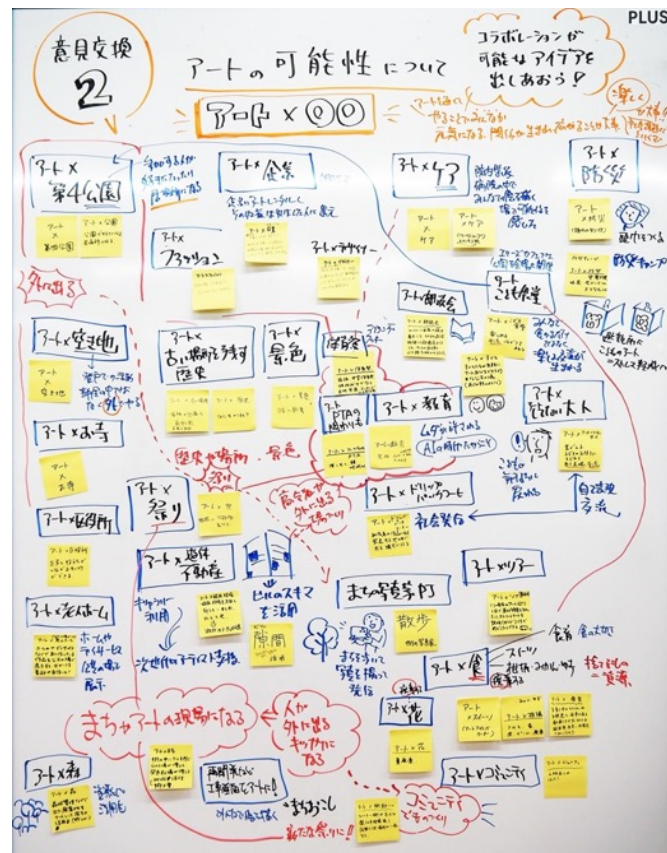


アートでつながるまちの取組事例や施策の紹介

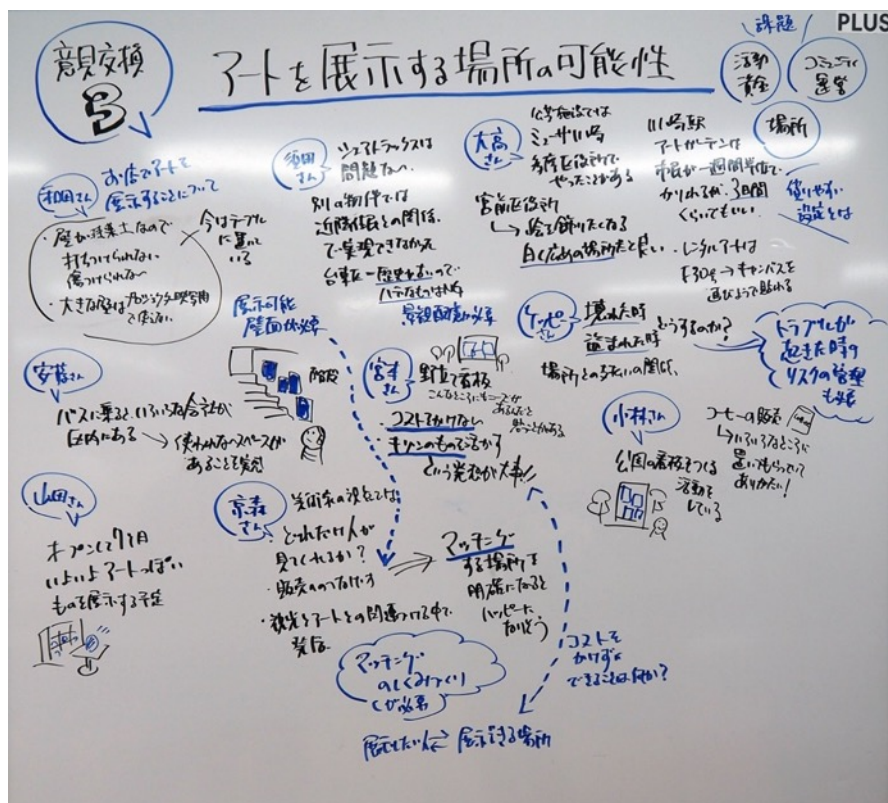


意見交換の様子

意見交換②：アートの可能性



意見交換③：アートを展示する場所の可能性



意見交換①：アートの魅力・すばらしさ

各参加者の発言内容の要約です。

美術家 京森 康平さん

宮前区で行ったベンチ装飾プロジェクトでは、区内の小学校から100名の有志が参加し、2日間にわたるワークショップでベンチを塗装しました。アートの魅力は、答えのない問いを投げかける点にあります。デザインとは異なる視点で「これって何だろう」といった発想を促し、「なぜここにこれがあるのだろう」といった疑問を生むことが、公共の場である区役所に設置されることによって、誰もが何かを感じ取るきっかけとなります。日常の風景にアートが加わることで、コミュニケーションや新たな考えが生まれることが、アートの豊かさであると考えています。

川崎市アートコミュニティ形成プロジェクト 「こと!こと?かわさき」第1期ことラー 有江 恭子さん

ことラーを始めて1年が経ち、印象に残った活動を紹介します。川崎駅の浮世絵ギャラリーで、小学生と中学生を対象に対話型鑑賞を行いました。そこで、フリースクールに通う小学校4年生の女の子と出会いました。その子は場面緘黙症で、人前では話せない状態でしたが、対話を通じて彼女の変化を感じました。終わりには、「すごく楽しかった」と似顔絵を描いて表現し、顔のこわばりもなくなりました。この経験を通じて、アートを介して人と繋がることの魅力を実感しました。

「地域活動支援センターアトリエ言の葉」 施設長 大高 玲さん

平で障害者の成人向け通所施設を運営しており、以前は入所施設で作業を担当していましたが、個性を活かした活動ができないことに疑問を感じ、アート施設を立ち上げました。絵画や手芸を通じて、利用者は自分の表現方法を見つけ、他者とのコミュニケーションが生まれました。アートにより、個性や表現を認識し合い、「障害がある人」という認識から「こういう表現をする人」という理解へと変わりました。また、展覧会「ワンアート展」を地域の施設と共に開催し、障がいの有無に関係なく作品そのものを評価してもらえる場を提供しています。区別のない社会を目指し、アートの魅力を感じています。

エリーズカフェ 代表 小林 貴大さん

「エリーズカフェ」では、障がい者の一時預かりサービスや子ども食堂を行っており、地域の公園の管理もしています。最近、宮前区を美術館にしようというロゴマーク募集に合わせて、子どもたちと一緒に絵を描く企画を開催しました。障がいのある方も一般の子どもたちも一緒に楽しみながら参加し、アートが年齢や障がいに関係なく共に楽しむきっかけになることを実感しました。また、3周年を迎えた記念として、手書きで作成したコーヒーのドリップパックを販売し、その売上を子ども食堂の資金にしています。アートを通じて、障がいがあっても表現方法は多様であり、みんなで楽しむ力があると感じています。

絵描き屋（イラスト、壁画、ポディーペイント等） 武藤 慧子 (Keppy)さん

Keppy として活動しており、「鷺沼アート展」などで展示の機会をいただきました。区内で様々なアート分野が一堂に集まり、互いに知り合うことができ、アートの多様性と可能性を感じています。最近、高津区で地域の子どもたちと共に、落書きされたお店のシャッターを絵で塗り替える取り組みを行い、地域の人々から「明るくなった」と好評を得ました。このような活動を通じて、アートが地域を元気にし、表現する側にも自信と誇りを与えることを実感しました。また、アートを展示し、購入する文化が広まることで、アーティストへの対価が返され、持続可能な活動が生まれると考えています。

「花ノ停留所」代表/デザイナー 山田 佳一郎さん

私はデザイナーであり、アートとデザインの違いについてよく話すことがありますが、最近はその違いがあまり重要ではないと感じています。デザインとアートは、コミュニティを元気にするという点で共通しており、町や人々の生活を豊かにすることを目指しています。私は家具や空間、腕時計などをデザインしており、これらを通じて感動を与えるのではなく、持つことで生活が豊かになることを考えています。アートもデザインも、目立たなくても人々の生活に影響を与える役割を果たしていると感じます。

意見交換②：アートの可能性について

●アート×第4公園

- ・公園が好きになる、居場所になる
- ・参加する人が好きな居場所に

●アート×空き地

- ・登戸での活動
- ・部屋の中ではなく外で行う

●アート×お寺

●アート×区役所

- ・区民と役所がつながるきっかけができる

●アート×老人ホーム・デイサービス

- ・ホームやデイサービスなどで制作している作品を公共の場で展示する
- ・出かける意欲や自信にもなりそう
- ・ホームやデイサービス、公共の場で展示

●アート×森

- ・森林管理などで出た廃棄物（竹など）をアートとして有効活用

●アート×祭り

- ・地域の可能性に気づく

●アート×遊休不動産

- ・遊休不動産を活用し、ギャラリー利用・アトリエ化
- ・次世代のアーティスト支援
- ・ビルの隙間活用

●アート×まち

- ・まちの中にアートを感じられる場が増える
- ・発表する場が増える
- ・地域活性化
- ・郷土愛

●アート×まちおこし

- ・シャッター街や巨大な壁（工事現場等）でのアート
- ・閑散とした場所が一転する
- ・再開発などの工事壁面をみんなで絵を描くアートに

●アート×コミュニティ

- ・小物づくり
- ・コミュニティでものづくり→人が外に出るきっかけになる→アートの現場になる

●アート×古い場所を残す・歴史

- ・アート×古い場所
- ・場所の記憶を再利用、未来の文化に
- ・何を残すか？

●アート×景色

- ・日常に刺激

●アート×（営業できる）企業

- ・企業とコラボすることで、みんなが描いた作品を病院や企業、個人宅などにレンタルしたり、販売したりできる
- ・企業にアートをレンタルし、その収益は制作した人に還元
- ・株式会社シス

●アート×ファッション

- ・市民が描いた作品でファッションショーを行う

●アート×デザイナー

- ・みんな（一般、子ども、障がい…）が描いた作品を、様々なグッズ（雑貨など）にデザインして、イベントやショップで販売する

●アート×体育祭

- ・高校、中学の体育祭
- ・校内だけでなく区内共通のランキングをつけて上級大会を開催

●アート×PTA

- ・催し物、親、地域の人

●アート×教育

- ・発想のムダさを許す、許される社会
- ・AIの時代だからこそムダが許される
- ・高齢者が外に出る場づくり

●アート×朗読会

- ・ユニコーン画家の絵を展示して、その方の創作物語の朗読会をしたことがある。アートがあることで心に残るものになった

●アート×子ども食堂

- ・楽しめる
- ・交流、つながりが生まれる
- ・みんなで食べるだけではなく楽しみや交流が生まれる
- ・エリーズカフェでは公園を会場に開催している

●アート×子ども

- ・子どもたちが気軽にアート制作できる、あざみ野のような公共の場

●アート×アートしてない大人

- ・若返る、子どもの気持ちに戻れる
- ・自己表現、交流

●アート×ドリップパックコーヒー

- ・制作者の作品になる
- ・発表する
- ・世の中に出る機会になる
- ・社会発信

●アート×まちの写真家プロジェクト

- ・散歩
- ・まちを歩いて写真を撮って発信

●アート×ツアー

- ・川崎市のアート巡り
- ・1日で美術館をまわったり、ガイド説明付きでストリートアートをめぐったりできる

●アート×廃棄される花

- ・夏の廃棄問題

●アート×食

- ・アート×スイーツ(アイシングクッキー)
- ・アート×柑橘 アロマ、香、皮、廃棄物
- ・アート×食育
- ・子育て中のママさんや子どもたちに、食事を作ることの楽しさや大切さを絵本、紙芝居、映像等で知ってもらう
- ・捨てるもの＝資源

●アート×ケア

- ・脱引きこもりワークショップ
- ・院内学校。病院の中でみんなで絵を描く場の可能性を感じた

●アート×防災

- ・頭巾の制作
- ・防災キャンプ
- ・災害対策
- ・坂茂の壁ダンボール、大きなキャンバスにアートを
- ・避難所に子どものアート＝ストレス軽減に

意見交換③：アートを展示する場所の可能性について

各参加者の発言内容の要約です。

ペンギンカフェ 和田 美智子さん

展示場所に関して課題があります。現在の壁面が珪藻土であり、打ち込むことができず、重たいものを展示できないため、上から吊るす展示方法を検討しています。しかし、壁の問題が解決できない限り、本格的な展示は難しく、展示できる範囲が限られています。展示の申し出は多数ありますが、壁の改善が課題です。また、壁に取り付けるとプロジェクターの映像に影ができてしまうため、今のところはテーブル上での展示にとどまっています。将来的にはこの課題に取り組みたいと考えています。

株式会社スペリアル 場づくり企画部 須田 展正さん

シェアトラックスは区役所から徒歩5分の距離で、特に課題を感じていません。実際にギャラリー利用もあります。しかし、台東区の運営施設では、敷地内の壁画にアートを描く構想があったものの、近隣住民との折り合いがつかず、実現できませんでした。台東区は歴史あるエリアで、派手なアートに反対する住民もいたため、壁画の設置は諦めました。シェアトラックスでは、企画を行う際には問題なく実施できると考えています。

「地域活動支援センターアトリエ言の葉」 施設長 大高 玲さん

ミューザ川崎や多摩区役所で展示を行った経験があり、現在はあざみ野ギャラリーや町田で展示しています。宮前区役所では、スペースが狭く、壁が白ければもっと絵を飾りたくなると感じています。また、川崎駅近くのアートガーデンの展示期間が1週間単位であることが、市民向けの絵画教室や子どもの造形教室には不便だと感じており、宮前区にはもっと使いやすい展示スペースが必要だと思っています。さらに、レンタル展示を企業や病院で行っており、画鋏でキャンバスを飾る形式で、企業にとっては癒しを提供する利点があると考えています。

絵描き屋（イラスト、壁画、ボディーペイント等） 武藤 慧子（Keppy）さん

地域で展示を行う際の課題として、壊れた場合の対応や万が一盗難があった場合の対策が考えられます。また、展示を支える人材の確保や、資金面での問題も挙げられます。具体的には、展示場所への費用、アーティストへの報酬、販売時の取り決めなどが課題になると考えています。

イラストレーター/グラフィックデザイナー 安藤 尚美さん

バスで移動することが多く、宮前区内の様々な企業を目にするようになりました。以前、鷺沼会議

室で展示を行った際に、使われていないスペース、例えば階段の部分をギャラリーとして活用できた経験があります。そうした使われていない壁や空間が他にもあるのではないかと感じており、企業の方々と話し合いを進めることで、新しい可能性が生まれるのではないかと思います。

(株)クリップ 代表 テレビ制作 プロデューサー 宮本 哲也さん

ビルの隙間を活用するというアイデアは、まさに使われていないスペースを活用するという発想に近いと思います。難しい部分もありますが、戸建看板の営業会社などを通じて情報を収集することが重要です。例えば、国道 246 沿いに立っている看板など、専門家が見つめる隙間には価値があると感じます。コストをかけずに有効活用できる方法を探し、既存のものをうまく掛け合わせていくことが、私が面白いと感じるテーマです。

エリーズカフェ 代表 小林 貴大さん

作品が触れられる場所を増やすことについて、私たちの取組の一つとして、別の福祉事業所から依頼を受けて作品を飾ることもしています。また、公園の看板を作る活動では、子ども食堂に参加した子どもたちと一緒に大きな木の板に絵を描き、それを公園に掲示しています。この活動は役所に相談しながら進めています。さらに、コーヒーのドリップパックは、施設で販売しているだけでなく、パン屋さん、クリニック、ピアノ教室などの他の施設にも置いてもらっています。こうした協力を得られることに感謝しています。

「花ノ停留所」代表/デザイナー 山田 佳一郎さん

お店を経営している中で、まだ課題に至っていないと感じています。オープンから約 7 ヶ月が経ち、ギャラリーというよりは店舗として運営しており、1 ヶ月に 1 回展示内容を変えています。6 月 18 日からはアート関連の展示を行う予定ですが、その際にどうなるかはまだ分からない状態です。テーブル 1 つ、棚 1 つ、壁を使って展示を行う予定で、彫刻的な展示を予定しています。実施後に課題が見えてくるのではないかと考えています。

美術家 京森 康平さん

アーティストとして生計を立てている立場として、作品を展示する際に重要視するのは、どれだけ多くの人に見てもらえるかということです。また、作品を売る場合は、販売にどれだけ繋がるかも重要なポイントです。最近では、芸術祭が観光と結びつき、経済効果が生まれることが多いですが、アーティストを周知するためには、オープンな公募展のようなものが有効だと考えています。まずはお金の話ではなく、「見て欲しい」という気持ちが最初にあると思うので、展示したい方と作品を見せたい方のマッチングができる場所があると良いと思います。オンラインで情報交換できる場所を作ることが、お互いにとってハッピーな結果を生むのではないかと感じました。